

## 令和7年度京都市美術館協議会 摘録

### 1 日 時

令和7年10月8日（水） 午前10時00分から午前12時00分まで

### 2 場 所

京都市京セラ美術館 地下1階 講演室

### 3 出席者

#### (1) 委 員

建畠哲委員（会長・議長）、太下義之委員、小山田徹委員、笹井史恵委員、篠原資明委員、鈴木順也委員、土橋靖子委員、西村世津子委員、原久子委員、東岡由希子委員、福永治委員、やなぎみわ委員

#### (2) 京都市

吉田良比呂副市長、野口穂高文化芸術都市推進室長、青木淳京都市京セラ美術館長ほか

### 4 傍聴者

1名

### 5 次 第

#### (1) 開 会

#### (2) 委員紹介

#### (3) 挨 拶（副市長 吉田良比呂）

#### (4) 挨 拶（京都市京セラ美術館長 青木淳）

#### (5) 次 第

ア 会長の選任

イ 令和6年度事業報告及び令和7年度事業について

ウ 前回の京都市美術館協議会での主な御意見と取組状況について

エ 御意見を頂戴したい主な論点について

オ その他

#### (6) 挨 拶

#### (7) 閉 会

## 6 議事摘録

(冒頭)	(1) 会長の選任 京都市美術館条例施行規則第14条第2項の規定により、建畠哲委員を会長とすることが決定された。
議長	令和7年度京都市美術館協議会の議事に入る。 はじめに、次第「(2) 令和6年度事業報告及び令和7年度事業計画について」及び「(3) 前回の京都市美術館協議会での主な御意見と取組状況について」を事務局から説明いただく。
事務局	(2) 令和6年度事業報告及び令和7年度事業計画について (3) 前回の京都市美術館協議会での主な御意見と取組状況について
議長	ただ今の報告に対する御意見等があればお伺いしたい。
委員	障害者の入場料はどのようにになっているか。
事務局	コレクションルームは、障害者の方と介護者1名の方は無料である。 展覧会にもよるが、企画展でも同様の取り扱いとなっていることが多い。
委員	作品購入額は1,500万円ということだが、例年はどうか。 寄贈が多いのは京都市美術館ならではだと思うが、寄贈を受け続けると収蔵キャパシティが心配になるが大丈夫か。
事務局	作品購入予算は年度によって多少増減はあるものの基本的に2千万円としている。例年、予算の範囲内で購入を行っている。 京都ゆかりの作家の方や御遺族の方等から寄贈のお申し出をいただくことが多いが、リニューアルに伴い新たに整備した収蔵庫において、現段階は収まっている状況である。ただし、他の美術館でも抱えている問題かと思うが、コレクションを増加させていきたい一方で、今後、収蔵場所の問題が出てくることはあり得る。
委員	学芸員が、プロパー4人、会計年度任用職員8人ということだが、コレクションがこれだけ多い美術館であるため、継続して企画や研究を行っていくためにも、今後プロパー学芸員を増加していく考えはあるか。
事務局	現在、正職員の学芸員が4人。週4日勤務の会計年度の学芸員が8人である。これに加え、現在は正職員1人の採用を進めている。 京都市全体で職員を縮減している流れの中、美術館だけ増加することは難しいが、現代アートやラーニングの直営実施に当たり必要な人員の充実を要求してまいりたい。
委員	今年度から新館東山キューブの展覧会運営が直営になったということだが、東山キューブという名称は残るのか。また、東山キューブでは現代アートを実施するという方向性は今後も引き継がれるのか。展覧会運営は色々な学芸員が携わるということになるのか。
事務局	東山キューブという名称は残し、基本的には現代アートを中心に実施していく。ただし、展覧会によっては、本館展示区画と一体的に使用するよ

	<p>うな構成もある。</p> <p>担当する学芸員については、基本は専門分野を中心に担当するが、全員が専門分野だけということでは難しいため、専門分野を中心に担当しつつ、他の分野も担当することになる。</p> <p>特にコレクションルームは、近代日本画、西洋画だけではなく、現代美術もあり、これらのコレクションの更なる充実を行っていくためにも、全体で取り組んでまいりたいと考えている。</p>
委 員	<p>新たに採用する学芸員が現代アート展を企画するのはいつからか。委託から直営に切り替わって、急に展覧会を企画することは無理だと思う。</p>
事務局	<p>今年度、東山キューブで実施の草間彌生展、ハローキティ展は、マスコミ等の主催者が中心に開催している企画展であるが、当館学芸員もサポートに入っている。こういった展覧会の企画は前年度以前から進んでおり、昨年度までは現代アート企画・運営業務の委託スタッフがサポートに入っていた。今年度は、当該委託スタッフの中から2名を当館職員として採用して引き続き展覧会に携わっている。</p> <p>一方、年明けの日本画アヴァンギャルド展は、元々当館に在籍していた学芸員の企画で実施するものであり、過渡期の中で展覧会企画を進めている。</p>
委 員	<p>入館者数200万人突破はすごいことだが、今後が心配。今の人々にうける展覧会を提供することで集客数を伸ばすことが公立美術館としての京都市美術館が目指すべきものなのかと不安に思っている。</p> <p>今年度は確実に入館者数が目減りする。そのような状況で、このまま人気作家の展覧会のみを実施していくのか、どのような評価軸で対峙するのか。バランスをどのように作っていくかが問われるのではないか。</p>
事務局	<p>昨年度は90周年ということもあって、一種のイベント的な方向になった。しかし、この美術館の在り方として、京都ならではの美術館として継続していくことが重要であり、そのためには、京都の持つ強みを鮮明にしていくことを基本にしていきたいと考えている。</p> <p>ある程度の集客を求められる一方で、地に足の着いた、京都でなければできない展覧会を企画していきたい。</p>
委 員	<p>予算について、歳入・歳出とともに令和6年度と令和7年度の差が約3億程度であるが、京都市においての予算組はどのような仕組みか。</p>
事務局	<p>基本的には、予算の枠をベースとしており、前年度と同程度の予算額になるものではある。</p> <p>令和6年度は、ふるさと納税を活用し、寄附金収入を展覧会の財源としたため、歳入・歳出ともに増加する特殊事情が生じた。</p> <p>リニューアルに当たり、以前の一般財源負担4千万円が4億円へと膨れ上がったことで、議会からも収支改善に努めるよう厳しく指摘を受けているところであり、アニメ展等の収益が見込まれる展覧会と、美術館として</p>

	実施すべき展覧会とのバランスが重要と考えている。
委 員	令和5年度の予算と決算はどのような状況だったか。
事務局	令和5年度予算は、歳出が10億3千万円、歳入が6億9千万円、一般財源が3億4千万円。令和5年度決算は、歳出が9億3千万円、歳入が6億円、一般財源が3億2,600万円であった。
委 員	令和6年度が特殊事情であったと理解した。
委 員	<p>多彩な展覧会が同時開催されており、とても複雑な美術館である。ハローキティ展をやりながら、西洋美術展を開催しつつ、近代以降の京都美術の多くのコレクションを持っている。そこに加えて現代美術を実施するという状況である。この人数の学芸員でよく実施できているなと思う。</p> <p>これだけの展覧会が同時開催するのであれば、展覧会相互に関係を持たせて、ハローキティ展に来た方に別の展覧会も見ていただくなど、せっかくなので違う展覧会にも入って新たな価値を得てもらえたなら良いと考える。</p>
事務局	展覧会によっては、相互割引を実施することもある。民藝展では特設ショップは誰もが入場可能であるため、キティ展を見た方が民藝展のショップを覗いていただいて、何かしら新たな発見をしていただくということはあると思う。
議 長	<p>続いて、御意見を頂戴したい主な論点について御意見を頂戴したい。</p> <p>まずは事務局より説明をお願いする。</p>
事務局	(4) 御意見を頂戴したい主な論点について
議 長	まずは「当館が取り組むべきラーニング（教育普及事業）の方向性について」御意見があるか。
委 員	<p>美術館の設置目的の一つに「社会教育施設であること」が入っている。「教育施設」であるという概念があるが、「教育」は上から目線で教えるという行為を指すのではなく、「社会学習施設」という考えを持つべき。「学習」という自立的、自主的な行為を引き出すための呼び水となるよう、様々ななかたちでアイディアを提供し、アプローチの仕方をお手伝いする場所であり、決して知識を教えたり、技術を教えたりする場所ではないということを念頭に置いてラーニングに取り組むべき。そのように考えると、現在実施されている展覧会、所蔵品の研究、発表等は十分になされており、学習の機会を与えられていると思う。ただし、それが享受されるための環境づくりを考える必要がある。子供たちがなぜ美術館に来ないかというのは環境のせいであると思う。子供たちに向けた展覧会は、大人から見た「子供が見たら良いと思う世界」というものを勝手に作っているだけであり、そのような企画が求められているとも思えない。むしろ、この環境に子供たちが来て、自由に感知できる環境をつくることができるかということがラーニングの大きなポイントであると思う。例えば、走り回ってしゃべることができる日をどれだけの日数設けられるか、親子で来ることができる</p>

	日をどれだけ展覧会の中に組み込めるか。小学校等で先生や親が子供を連れて行く時間がとれない環境で、放っておいても来ない。公共が設置している美術館が最大に考えるべきは、関係性をどうつくるか、自由な鑑賞ができる環境をどのように提供できるかがポイント。子供たちは、来ることができ、自由に鑑賞できる環境であれば、自由に学ぶ。「教育普及」という言葉が、「学習普及」という概念でもう一度捉えなおされて、どうすれば自立的な学習ができるか、場を提供できるか、そういうことを中心に考えられると良い。
委 員	ラーニングは、京都市教育委員会、例えば小学校との連携は行っているのか。また、ワークショップ専用の部屋はあるのか。京都は伝統産業がたくさんあり、小さな子供が手で触って感じることや、ものを作る体験があるとラーニングとして良いと思う。
事務局	京都市立の小学校であれば、先生とやり取りしながら、担当者が出かけて行ってお話しさせていただくことなどもある。また、京都芸術教育コンソーシアムに参画しており、大学の先生方などとのネットワークがあるため、今後、様々な取り組みを充実できれば良いと考えている。 ワークショップは主に講演室で実施している。また、本館2階の談話室がラーニングの拠点となっており、常にワークシートを設置している。来月には、みやこめつせにある伝統産業ミュージアムと連携して、京コマ作り、和ろうそく絵付け体験等、実際に手で触れることも含んだワークショップを開催する予定である。
委 員	ラーニングは幅広い概念。ターゲットの想定と、そのための手法、ツールをきちんと組み合わせて考える必要がある。そこで、3点お話しする。 1点目。ナイトミュージアムとして金曜の夜にビジネスパーソン向けの企画は良いと思うが、実際に参加するのは元々アート好きな人。本来のターゲットはそういった人ではないと思う。市内企業がたくさんあり、海外企業との取引もたくさんあると思うが、オフや雑談で仕事の話ばかりする訳ではなく、相手がヨーロッパのビジネスエリートであれば、きちんと日本の文化やアートの話ができないと対等に相手ができないと思う。そういう意味では、海外で活躍するビジネスマンや企業幹部こそ、文化やアートを学ぶ必要があるが、そういう人たちは金曜の夜に開催しても来ない。企業研修という形で、半ば強制的にアートを体験してもらうしかない。それはBtoBの話で、ビジネスパーソンが新たな気付きを得られるようなラーニングを企画してもらいたい。 2点目は子供向け。来た方だけを相手にしていると、親がそういった関心を持っている家庭の子供しか体験できない。よって学校単位で取り組むしかないが、教員が時間がない中でも取り組んでみようかと関心を持ってもらうためには、まず教員自身にアートを理解してもらうことが重要。そのうえで、教員が教えやすいような素材を一緒に作っていくという手間暇

	<p>のかかるプロセスが必要ではないか。美術の知識を伝えるのではなく、多くの気付きを発見する、その入口になるようなラーニングを企画してもらえば良いと思う。</p> <p>3点目。一般の方を対象にした企画としては、対話型鑑賞が大きなツールになる。対話型鑑賞は一般の方向け以外にも、認知症の方や介護者などの関係改善に繋がるなど、様々な可能性が示されている。こちらも、偶然来た方というのではなく、福祉施設とのコラボレーションができるといい。</p>
委 員	<p>本日の主な論点として掲げているものについて、方向性についての意見というお題であるが、方向性とは、対象とするターゲット層を定めたいのか、あるいはツールのことなのか、何を想定して挙げているものか曖昧なまま議論が始まっている。おそらくは、想定されるターゲットとしては子供、それから一般市民、高齢者や障害者。一方でまだ一人前になっていない学生や若手の作家。そして外国人観光客。この辺りが対象者としてあり得るが、どういった性格の教育普及事業にしていきたいのか。その考えがあればそこに乗って議論をしていけるが、それがまだないのであれば、一つ一つのターゲット層に切り込んでいこうというのが方向性になるのだと思う。</p>
委 員	<p>美術館に来たことがない人にアピールしたいという場合において、広報の専門家から聞いた話では、2割の人は来たことがあるが8割の人が来たことがない場合、8割の人に来てもらえるようにしようとは、2割の人に向けた場合と同じ量の広報をしてもほとんど来ないため効率が悪く、興味のない人に働きかけるよりも、興味のある人にリピーターとして働きかける方が、美術館としては来場者獲得に寄与すると聞いた。来たことのない人を掘り起こす作業は必要だと思うが効率が悪いので、類は友を呼ぶとして友の会などに招待券を配って自分の仲間に声を掛けてしまうと効率が良いという話だった。一般的な広報をたくさん流したら反応してくれるものでもないため、よりそれを掘り起こすようなマイニングのテクニックが必要だと思う。</p>
議 長	<p>次に、御意見を頂戴したい主な論点のうち、「当館にふさわしい現代美術の展覧会ラインナップについて（主催展、共催展）」御意見があるか。</p>
委 員	<p>日本画の展覧会の人気がないが、所蔵品は圧倒的に日本画が多い。日本画の魅力を現代的に増幅していくような展覧会が良い。写真が人気なので、日本画をフォトグラファーに撮ってもらうといった新しい見せ方の展覧会なども面白い。</p> <p>A Iなどを活用したキャラクターロボなどを導入してみるのも、ラーニングにもなり、面白い展覧会になると思う。</p> <p>80年代をテーマにした展覧会も見たい。</p>
委 員	単なる回顧展よりも、今・現在につながる何かがあればおもしろい。リ

	ニューアル前の展示で一番印象的だったのは、ダムタイプのパフォーマンスが大展示室であり、観客がロフトの上から巨大なコピー機のようなものを見下ろして、下で演者がパフォーマンスをしていた展示であり、忘れられない。その他、野村仁の作品を購入しているが、個展が見たい。また、京都らしい前衛画の展覧会。誰か作家が水先案内人として一般の人に語るもののが見たい。
委 員	<p>現代美術は、今の価値観や社会に対して違和感を持つ人が何かを作り始めるというものが多い。発表している段階では、なかなか共感者がいない状態からスタートすることが現代美術の基本形。ある種評価が確定したもののほうが、入場者数が多くなり扱いやすい状態にあるのは悩ましいところではある。</p> <p>この美術館ではザ・トライアングルという若手作家のトライアルの場所があるが、メインとなる展示会場で、評価が一般的に定まっていない作家群を扱う気があるのかどうか。税金で運営している美術館には、社会的な批判を提示する役割が求められていると思う。</p>
委 員	現代美術は読み解きが難しい。美術館が考える読み解きや解釈の仕方を提示することがラーニングにもつながるのではないか。
委 員	ある市では、学校の先生に対話型鑑賞を体験いただこうという案がある。そのためのセミナーから始めたらどうかという話が出ているところである。
議 長	多彩なご意見に感謝申し上げる。本日は、これにて議事を終了とする。